

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																							
専門学校社会医学技術学院		昭和48年3月31日	山田千鶴子	〒184-8508 東京都小金井市中町2-22-32 (電話) 042-384-1030																							
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																							
一般財団法人日本リハビリテーション振興会		平成25年4月1日	宮武 剛	〒184-8508 東京都小金井市中町2-22-32 (電話) 042-384-1030																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	理学療法学科		平成7年1月23日文科科学省告示第7号	なし																						
学科の目的	1年次に「身体障害」「小児・発達障害」「精神障害」の3分野の「施設見学を実施し、2年次には「老人保健施設」での実習を行うなど、低学年から様々な臨床現場を体験し、就職先の現場で即戦力となる人材を養成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	夜間	2885時間	1510時間	70時間	855時間	0時間	450時間																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
140人		134人	0人	6人	30人	36人																					
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験により授業目標の達成度を評価し、学習態度及び出席状況等を総合して行う。 各学年所定の授業科目のすべてに合格した者は進級又は卒業を認める。																						
長期休み	■学年始: ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席が授業回数の1/3を超えた者は評価を受けることができないが、欠席の理由がやむを得ないと認められ、科目の補填が可能な場合に限り、教育会議の議を経て評価を受けること			課外活動	■課外活動の種類 (例)障害者の乗馬療法のアシストなど  ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 病院(国立病院機構・公立・大学・一般)、老人保健施設など  ■就職指導内容 就職説明会の実施、履歴書の書き方指導、担任教員による個別相談・指導  ■卒業生数 33 人 ■就職希望者数 33 人 ■就職者数 31 人 ■就職率 : 94 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94 %  ■その他 ・進学者数: 0人 ・○○○○○  (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士</td> <td>②</td> <td>33人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士	②	33人	28人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
理学療法士	②	33人	28人																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成29年4月1日時点において、在学者134名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者131名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 体調不良・進路変更、成績不振など ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等(担任教員による面談や保護者との連携、また臨床心理士による心のケアなどを行っている)			■中退率 2.2%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的に就学困難な最終学年を対象とした給付型奨学金制度(1人10万円)  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 (評価団体:一般財団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月:2015年3月、評価結果:認定(全ての評価基準を満たしている)																										
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.sigg.ac.jp">http://www.sigg.ac.jp</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
理学療法士・作業療法士育成のための教育課程の編成・改善にあたり、以下の方針で病院・施設等と密接に連携する。  
(1)常に進歩・変化していく現場のニーズを、いち早く教育に取り入れる。  
(2)全ての教育課程を臨床的実践力として結実させる。  
(3)臨床実習により役立つよう学内授業を工夫する。  
(4)学内授業がより役立つよう臨床実習を工夫する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・本委員会は学院長の直轄機関として、社会医学技術学院の委員会組織として位置づけるものである。  
・本委員会の意見は学内の教務委員会及び各学科会議、さらに教育会議で審議されたのち、学院長の許可を経て決定し、科目内容に反映させている。

平成30年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
山口 昇	合同会社ライフケアゆうあい	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	③
小林 賢	慶應義塾大学病院	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	③
佐藤 直	元 東京YMCA医療福祉専門学校 作業療法学科 教員	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	③
山田 隆介	新座病院	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	③
大久保孝彦	八王子保健医療生活協同組合	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	③
小川 かつみ	参議院議員 厚生労働委員会委員	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	①
下岡 隆之	東京都作業療法士会 理事	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	②
丸山 仁司	全国リハビリテーション学校協会 理事	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	①
山田 千鶴子	(専)社会医学技術学院 学院長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	
帯刀 隆之	(専)社会医学技術学院 副学院長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	
中村 伴子	(専)社会医学技術学院 副学院長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	
遠藤 敏	(専)社会医学技術学院 副学院長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	
和島 英明	(専)社会医学技術学院 理学療法学科長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	
河野 達哉	(専)社会医学技術学院 作業療法学科長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	
林 弘康	(専)社会医学技術学院 キャリア支援室長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

通常は年2回、9月と3月に開催している。

(平成29年度開催日時)

第9回 平成29年9月21日 18:30～20:30

第10回 平成30年3月8日 18:30～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

時代は少子高齢化がますます進展し、多死社会を迎えようとしている。理学療法士の役割も病院等の医療機関に留まることなく介護保険分野など多様な広がりを見せている。このような時代の変化に対応できることが求められる。個別の技術論に偏ることなく、本来の使命である対象者の生活能力の回復を目指せるような教育内容の整備をする必要がある。卒業生の就業先では各専門基本技術の修得に並んでコミュニケーション能力についてもニーズが高い。これらの提言を受け、当面各科目内で個別的な教育目標の追加・整備を行った。直近のカリキュラム改訂の際には独立した科目を設置することとしている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習

- (1) 学内学習を臨床で正しく応用・統合する。
- (2) 実習に必要な基礎学習の不足を本学へフィードバックする。
- (3) 学生の個性が学習に生かされるよう実習施設と本学と個々に連携する。

学内実習・演習

- (1) 最新の知見をより実践的に学習するため適宜外来講師を招聘する。
- (2) 臨床実習での応用がより円滑になるように適切な「臨床実習指導者」を招聘する。
- (3) 上記の目的で「臨床実習指導者」と意見交換を行い、実習・演習に活用する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・臨床実習により、実務を想定した実習環境の提供を受ける。
- ・実務を想定した症例の検査・測定を実施する。
- ・実務指導者による実技指導を受け、また検査結果の解釈方法については座学指導を受ける。
- ・実務での要求レベルを踏まえ学修到達目標についての助言を受け学内学修の参考とする。
- ・目標到達水準について実務指導者と協議し学修成果の評価を行う。
- ・実務指導者を学院に招き臨床実習についての打ち合わせ・検討会議を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	実務を想定した環境で、症例を対象に理学療法検査と測定、実習記録の作成を実習する	別紙様式3-1を参照
臨床実習Ⅱ	実務を想定した環境で、症例を担当して理学療法評価を実施する。評価から分析・統合・解釈の考え方を学修し、治療計画の立案を経験する	別紙様式3-1を参照
臨床実習Ⅲ-A	実務を想定した環境で8週間を実習する。担当症例について理学療法評価から治療の実施と全般的な実習を行う	別紙様式3-1を参照
臨床実習Ⅲ-B	臨床実習Ⅲ-Aと同様に実務を想定した環境で8週間を実習する。 実習Ⅲ-Aで学修した成果を踏まえ、可能な学生にはさらに応用的な症例についても実務指導者の指導を受けながら実習を行う。 不足のある学生には、継続的な実習経験時間として学修する	別紙様式3-1を参照
臨床実習前セミナー	これから始まる臨床実習に向けて、技術指導だけでなく臨床に出るにあたっての心構えや、患者・実務指導者との接し方や対応についてのアドバイスをもらう	臨床実習指導者会議へ出席者より選任

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門分野領域や就業先が求める実務知識や効果的指導方法を習得し、教育内容や指導方法に反映することを目的とし、「職員の研修(講習)会等の参加に係わる承認基準について(内規)」及び、2016-2020年度中期事業計画の中の重点目標、及び具体的施策の教育の質の向上、教員の教育力の向上の項目に基づき、教職員の研修参加を促している。また、学内委員会の一つであるFD委員会が、月1回の教育力の向上を目指した研修会を学内で実施している。

## (2) 研修等の実績

### ① 専攻分野における実務に関する研修等

日時 : H29/ 5/12-5/14

研修名 : 日本理学療法学会大会

主催 : 日本理学療法士協会

場所 : 幕張メッセ

参加者 : 小林規彦, 藤川明代, 小宮山一樹, 藤本英明

内容 : 理学療法学会についての学術発表と講演の研修

日時 : H29/ 6/8-6/10

研修名 : 日本リハビリテーション医学会学術集会

主催 : 日本リハビリテーション医学会

場所 : 岡山コンベンションセンター

参加者 : 帯刀隆之

内容 : リハビリテーション医学についての学術発表と講演の研修

日時 : H29/ 10/8-10/9

研修名 : 日本義肢装具学会学術大会

主催 : 日本義肢装具学会

場所 : TFTビル・ホール(江東区)

参加者 : 林 弘康

内容 : 義肢装具についての学術発表と講演の研修

日時 : H29/ 11/24-11/25

研修名 : 日本臨床バイオメカニクス学会

主催 : 日本臨床バイオメカニクス学会

場所 : 松山市総合コミュニティセンター

参加者 : 帯刀隆之

内容 : 臨床バイオメカニクスに関する学術発表と講演の研修

日時 : H29/ 7/29-7/30

研修名 : 日本ボバース研究会学術大会

主催 : 日本ボバース研究会

場所 : ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

参加者 : 山形哲行

内容 : 中枢神経障害の関する理学療法の研修と講演

日時 : H29/ 10/28-10/29

研修名 : 日本物理療法学会学術大会

主催 : 日本物理療法学会

場所 : 畿央大学

参加者 : 沼尾 拓

内容 : 物理療法に関する学術発表と講演の研修

### ② 指導力の修得・向上のための研修等

日時 : H29/ 4/20

研修名 : FD勉強会「学生相談室報告」

主催 : 学院FD委員会

場所 : 学内

参加者 : 全教員

内容 : 「現代の若者気質の理解」「発達障害について」の研修

日時 : H29/ 11/16

研修名 : FD勉強会「ハラスメントを理解する」

主催 : 学院ハラスメント委員会

場所 : 学内

参加者 : 全教員

内容 : ハラスメントの理解と事例検討の研修

日時 : H29/ 10/19

研修名 : FD勉強会「SDを理解する. 教務システムについて」

主催 : 学院FD委員会

場所 : 学内

参加者 : 全教員

内容 : SDの理解のための研修

日時：H29/ 8/30-9/1  
研修名：教育研究大会・教員研修会  
主催：日本リハビリテーション学校協会  
場所：新潟医療福祉大学  
参加者：和島英明、長屋 説  
内容：専門教育に関する講演と事例検討研修会、学内教育成果の演題発表

日時：H29/ 5/15-5/17  
研修名：教育ITソリューションEXPO  
主催：株)リードエグジビションジャパン  
場所：幕張メッセ  
参加者：帯刀隆之、兵頭洋子、鹿島 藍、小島 肇  
内容：教育ITに関わるツールや教材の展示と最近の動向について情報収集と講演の研修

日時：H29/ 5/18-H30/3/15（原則月1回、全8回開催予定）  
研修名：FD勉強会「アクティブラーニングを促進する点の授業方法・授業評価」  
主催：学院FD委員会  
場所：学内  
参加者：全教員  
内容：FD委員がファシリテーターとなって教員参加の模擬授業と教員同士による評価

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

日時：H30/5/25～26  
研修名：第53回日本理学療法学会学術研修大会（認定PT必須研修会）  
主催：日本理学療法士協会  
場所：茨城（つくば国際会議場）  
参加者：山形哲行  
内容：「自立を支援する臨床技能を極める」

日時：H30/6/24  
研修名：東京都理学療法学会学術大会  
主催：東京都理学療法士協会  
場所：首都医校 総合校舎コケーンタワー  
参加者：小林規彦、岡田要一郎、藤本英明、中山雅和、福田 崇、山形哲行  
内容：理学療法の発展と基盤の再考、シンポジウム、特別講演（地域リハビリ、地域包括ケア、高次脳機能、呼吸器障害、循環器障害）

日時：H30/6/29  
研修名：第1回人権教育研修  
主催：東京都私学財団  
場所：セントラルプラザ11F  
参加者：和島英明  
内容：入学（園）者選抜及び採用選考における留意点

日時：H30/7/7  
研修名：平成30年度認定必須研修会（学校教育）  
主催：東京（田町カンファレンスルーム）  
場所：日本理学療法士協会  
参加者：山形哲行  
内容：教育方法論、行動科学、教育評価、専門教育水準

日時：h30/7/19  
研修名：実践行動学セミナー  
主催：実践行動学研究所  
場所：東京国際フォーラム  
参加者：小宮山一樹、和島英明  
内容：退学者を防ぐために今求められるもの

日時：H30/7/28～29  
研修名：第8回日本ポバース研究会学術大会  
主催：日本ポバース協会  
場所：大阪（大阪国際交流センター）  
参加者：山形哲行  
内容：ポバース概念の未来を見据えて

日時:H30/8/3~4  
研修名:第50回 日本医学教育学会  
主催:日本医学教育学会  
場所:東京医科歯科大学  
参加者:長屋 節  
内容:「知と癒しの匠を創造する」

日時:H30/8/4  
研修名:認定必須研修会(介護予防)  
主催:PT協会  
場所:CIVI研修センター秋葉原  
参加者:長屋 節  
内容:介護予防論/介護予防における評価/介護予防の実際/介護予防の取り組み

日時:H30/8/24~25  
研修名:第31回教育研究大会・教員研修会  
主催:全国リハビリテーション学校協会  
場所:北海道文京大学  
参加者:長屋 節、和島英明  
内容:「社会の変化とリハビリテーション教育の接点を考える」

日時:H30/8/27~29  
研修名:第14回リメディアル教育学会 全国大会  
主催:日本リメディアル教育学会  
場所:創価大学  
参加者:長屋 節  
内容:「激変する社会における大学の未来を考える」

日時:H30/8/28~29  
研修名:夏期専門学校教職員研修会  
主催:全国専門学校情報教育協会  
場所:ウチダ人材開発センター  
参加者:小島 肇  
内容:メンタルヘルス対応力向上研修(精神疾患、発達障害、他)

日時:H30/9/29  
研修名:日本支援工学理学療法学会学術大会  
主催:日本理学療法士協会 日本支援工学理学療法学会  
場所:大阪人間科学大学 庄屋学舎  
参加者:小林規彦  
内容:移動を支える支援工学

日時:H30/9/29~30  
研修名:第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会  
主催:日本理学療法士協会  
場所:栃木(栃木県総合文化センター)  
参加者:山形哲行  
内容:「守るべきもの、変わるべきもの」 ~参加の本質を考える~

日時:H30/10/20  
研修名:仙腸関節障害に対する評価と理学療法  
主催:TAP研究会  
場所:タワーホール船堀  
参加者:中山雅和  
内容:仙腸関節障害の病態、問診、評価とアプローチ

日時:H30/11/10~11  
研修名:日本義肢装具学会学術大会  
主催:日本義肢装具学会  
場所:名古屋国際会議場  
参加者:小林規彦  
内容:長寿を支える義肢装具・支援機器

日時:H30/11/10~11  
研修名:第16回 日本神経理学療法学会学術大会  
主催:日本神経理学療法学会  
場所:グランキューブ大阪  
参加者:沼尾拓  
内容:神経系理学療法の最新知見の意見交換

日時:H30/12/6～7  
 研修名:第42回日本高次脳機能障害学会学術総会  
 主催:日本高次脳機能障害学会  
 場所:神戸国際展示場  
 参加者:沼尾拓  
 内容:高次脳機能障害についての最新知見の意見交換

日時:H30/12/8～9  
 研修名:日本地域リハビリテーション学会学術大会  
 主催:日本理学療法士協会 日本地域リハビリテーション学会  
 場所:パシフィコ横浜  
 参加者:小林規彦  
 内容:地域理学療法学の構築に向けて ～地域共生社会を支える理学療法学～

②指導力の修得・向上のための研修等

日時 : H30 7/19-H31/ 3/28 (月1回, H30年度定例開催企画 全8回予定)  
 研修名: FD勉強会 「模擬授業による授業評価と改善」  
 主催 : 学院FD委員会  
 場所 : 学内  
 参加者: 全教員  
 内容 : 全教員が持ち回りで担当し模擬授業を行う。それに対して参加教員により授業評価・改善意見の交換を行う

日時 : H30/ 9/20  
 研修名: FD勉強会 「ハラスメントを理解する」  
 主催 : 学院ハラスメント委員会  
 場所 : 学内  
 参加者: 全教員  
 内容 : ハラスメントの理解と事例検討を研修する

日時 : H30/12/20  
 研修名: FD勉強会 「各種学会・研修会の参加報告」  
 主催 : 学院FD委員会  
 場所 : 学内  
 参加者: 全教員  
 内容 : 教員が参加する各種学会・研修会の伝達講習をブリーフィング形式で行う

日時 : H31/ 5/16  
 研修名: FD勉強会 「H30年度 学生相談室報告」  
 主催 : 学院FD委員会  
 場所 : 学内  
 参加者: 全教員  
 内容 : 学生相談室の利用状況と事例検討

日時 : H31/ 5/15-5/17  
 研修名: 教育ITソリューションEXPO  
 主催 : 株)リードエグジビションジャパン  
 場所 : 幕張メッセ  
 参加者: FD委員, 他教職員  
 内容 : 教育ITに関わるツールや教材の展示と最近の動向について情報収集と講演会の受講

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営について就職先委員等を含む8名の委員により以下に関する意見を求める。

①学院の教育目標、教育方針、教育計画に関すること ②教育活動の実施に関すること ③学院と地域の連携の進め方に関すること ④その他本学院の学校運営に関すること

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等。成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価



(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者と連携、卒業生・社会人
(6) 教育環境	施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査
(9) 法令等の遵守	関係法規、個人情報保護、学校計画、教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成28年度実施した学校関係者評価結果に基づき、以下の主な意見を聴取し参考にした。①入学前教育の実施に対する、主に効果についての意見 ②入学応募者を確保するための方策についての意見 ③教職員人事評価制度を試行させた年度であることからそれに関する意見 ④卒業時点・卒業生の国家試験合格率の向上と確保に関する意見 ⑤産学連携に関する意見 ⑥臨床実習教育に関する意見 など

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
大関健一郎	帝京科学大学医療科学部作業療法学科	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	卒業生
小林 一久	医療法人社団東桐会調布病院	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	保護者
杉村 夕		2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	外来講師
西村 和美	東京都立昭和高等学校進路指導担当	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	高等学校
西本 典良	(一財)天誠会小金井あんず苑	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	就職先
花宮 豊	医療法人欣助会 吉祥寺病院	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	実習地
濱田 智徳	濱田公認会計士事務所	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	地域
濱松 俊彦	小金井市保健福祉部 高齢福祉課 包括支援係長	2018年4月1日～2020年3月31日(2年)	自治体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員, PTA, 卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)平成29年4月25日公表

URL:<https://www.sigg.ac.jp/corporate/foundation/index.html#foundation05>

## 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠し、毎年「自己点検評価、学校関係者評価」を実施する。評価結果を学校ホームページで公開するとともに年次ごとに更新を実施している。また、「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に準拠し、公開を求められているすべての項目について学校案内、学生募集要項、学校ホームページのいずれかによって情報

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、沿革、教育理念等、行動目標、
(2) 各学科等の教育	定員、在校生数、カリキュラム、資格取得率、卒業生数、就職率、求人数
(3) 教職員	常勤職員数、非常勤職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	臨床実習の概要
(5) 様々な教育活動・教育環境	入学式、三科合同行事、体育祭、文化祭、卒業式
(6) 学生の生活支援	学生相談室
(7) 学生納付金・修学支援	納付金
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、第三者評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3) 情報提供方法 ホームページ

URL:<https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/index.html>

## 授業科目等の概要

(医療専門課程夜間部理学療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			臨床心理学	対象者の心理を理解するための検査法、 ならびに心理治療の概要を学習する	1 後	30	2	○			○			○	
○			人間発達学	人間の発達を身体運動、対人関係、認知 機能、言葉、人格の側面から学習する	1 後	30	2	○			○				○
○			医療情報学	医療人としての情報の活用法および学習 法、基本的な社会人としての振るまい等 を学習する	1 後	30	2	○		△	○			○	
○			バイオメカニクス	人間の身体運動を物理学の側面から学習 する	1 前	30	2	○	△		○			○	
○			理学療法研究法	臨床活動のまとめや研究を行うために基 本となる各種研究法を学習する	1 後	30	2	○			○			○	
○			行動科学	人間の行動変容を促すための理論や要 因、必要な技術などについて学習する	4 後	30	2	○			○				○
○			統計学	研究法に用いられる統計的手法およびそ れに使われる統計ソフトの使用法につ いて学習する	4 後	30	2	○			○				○
○			解剖学 I a	解剖学のうち、筋骨格系について学習す る	1 前	60	2	○			○				○
○			解剖学 I b	解剖学のうち、消化器系、感覚器系につ いて学習する	1 後	60	2	○			○				○
○			解剖学 II	解剖学のうち、神経系、脈管系について 学習する	1 前	60	3	○			○				○
○			生理学 I	生理学のうち、運動生理学について学習 する	1 通	60	3	○			○			○	
○			生理学 II	生理学のうち、生体恒常性の生理学につ いて学習する	1 通	60	3	○			○				○
合計			12 科目		510		単位時間(			27		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
科目成績合格にて単位を取得、履修方法は通学	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(医療専門課程夜間部理学療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			運動学Ⅰ	人体運動の表記, 関節・筋の構造と運動, 筋触診法について学習する	1通	60	3	○		△	○		○		
○			運動学Ⅱ	歩行や移動動作等の人体の運動を分析するために必要な運動学的知識を学習する	2前	30	2	○		△	○		○		
○			運動学演習	人間の身体運動や歩行を分析するための手法と運動学的知識を学習する	2後	60	2	△	○	△	○		○		
○			病理学概論	各種の疾患の病態や原因について学習する	1後	30	2	○			○			○	
○			神経内科学	神経学的症状を呈する疾患の病因や治療方法について学習する	2前	60	3	○			○			○	
○			整形外科学	整形外科的症状を呈する疾患の病因や治療方法について学習する	2通	60	3	○			○			○	
○			精神医学	精神医学的症状を呈する疾患の病因や治療方法について学習する	2前	30	2	○			○			○	
○			臨床医学	内科・小児科および老年科の疾患の病因や治療方法を学習する	2前	60	3	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や理念, 概要について学習する	1前	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーション医学の概要について学習する	2後	30	2	○			○			○	
○			理学療法概論Ⅰ	理学療法の歴史や理念, 概要について学習する	1前	30	2	○			○			○	
○			臨床運動学	運動学の知識を基に臨床において運動を観察・分析・記述ができるために学習する	3前	60	2	△	○		○			○	
合計			12 科目		540		単位時間(			28		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
科目成績合格にて単位を取得, 履修方法は通学	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

**(留意事項)**

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(医療専門課程夜間部理学療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			理学療法概論Ⅱ	理学療法業務における管理・運営や倫理について学習する	4後	20	1	○			○		○		
○			理学療法研究法演習	臨床活動の検証や研究を行うための基礎となる方法論を学習する	4後	40	2	△	○		○		○		
○			理学療法評価学Ⅰ	基本的な身体機能を理学療法評価するための知識、技術について学習する	2前	60	2	△	○		○		○		
○			理学療法評価学Ⅱ	脳・神経機能を理学療法評価するための知識、技術について学習する	2後	60	2	△	○		○		○		
○			理学療法評価学演習	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱで学習した内容を演習形式で習得する	3後	60	2	△	○		○		○		
○			運動療法学概論	運動療法の定義、運動の種類、運動を治療的に用いるための観点について学習する	2前	30	2	○			○		○		
○			運動器障害理学療法学	運動器障害領域の理学療法治療を実施するために必要な知識、技術について学習する	2後	60	3	○			○		○		
○			日常生活活動論	日常生活活動の評価、指導をするための知識、技術について学習する	2後	60	3	○			○		○		
○			運動療法学技術論	中枢神経障害、運動器障害に対する治療方法論演習と特殊な技術について学習する	3後	60	2	△	○		○		○		
○			脳血管障害理学療法学	脳血管障害領域の理学療法治療を実施するために必要な知識、技術について学習する	3前	60	3	○			○		○		
○			発達障害理学療法学	発達障害領域の理学療法治療を実施するために必要な知識、技術について学習する	3前	60	3	○			○			○	
○			神経障害理学療法学	神経障害領域の理学療法治療を実施するために必要な知識、技術について学習する	3後	40	2	○			○		○		
合計			12 科目		610		単位時間(			27		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
科目成績合格にて単位を取得、履修方法は通学	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

**(留意事項)**

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(医療専門課程夜間部理学療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			内部障害理学療法学	内部障害領域の理学療法治療を実施するために必要な知識、技術について学習する	3 後	60	3	○			○	○			
○			物理療法学	治療に用いられる物理的手段の適応方法についての知識、技術について学習する	3 前	60	3	○			○	○			
○			日常生活活動論演習	日常生活活動論で学習した内容を演習形式で習得する	3 後	30	2	△	○		○	○			
○			義肢装具学	義肢装具について種類、構造、適応についての知識と技術を学習する	3 前	60	2	△	○	○	○	○			
○			義肢装具学演習	義肢装具学で学習した内容を演習形式で習得する	3 後	30	1	△	○	○	○	○			
○			運動療法学特論	各領域における最新の、あるいは実践的な運動療法について学習する	4 後	40	2	○			○	○			
○			生活環境論	対象者が置かれる生活環境の理解を図るための知識について学習する	3 後	20	1	○			○	○			
○			社会福祉学	老人福祉、障害者福祉についてその概要や社会福祉の諸制度について学習する	4 後	20	1	○			○		○		
○			地域福祉論	地域における社会福祉の展開について学習する	4 後	20	1	○			○		○		
○			地域理学療法論	地域で展開される理学療法についての知識、技術を学習する	4 後	30	2	○			○	○			
○			臨床実習Ⅰ	臨床現場で実際に、身体障害者に対する理学療法評価の技術を習得する	3 前	45	1			○	○		○	○	
○			臨床実習Ⅱ	臨床現場で実際に、身体障害者に対する理学療法評価の技術ならびに統合と解釈を習得する	3 後	90	2			○	○		○	○	
合計			12 科目		505		単位時間(			21		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
科目成績合格にて単位を取得、履修方法は（臨床実習は実習地へ）通学	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(医療専門課程夜間部理学療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			臨床実習ⅢA	臨床現場で実際に、身体障害者に対して、理学療法の評価から治療までの知識と技術を習得する	4前	360	8			○	○			○	○
○			臨床実習ⅢB	臨床現場で実際に、身体障害者に対して、理学療法の評価から治療までの知識と技術を習得する	4前	360	8			○	○			○	○
				以下余白											
合計				2 科目			720	単位時間(			16	単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
科目成績合格にて単位を取得、履修方法は（臨床実習は実習地へ）通学	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。